

天地有機

特定非営利活動法人

日本有機農業生産団体中央会

東京都千代田区外神田6-15-11

電話 03-5812-8055

●2月の大雪のために関東甲信地域で大きな農業被害:15頁

今年の2月に、ふだんあまり雪のふらない関東甲信地域に大雪が降りました。1日の降雪量としては新潟の豪雪地帯に近く、村の年寄も見たことのない雪でした。このため、東京、埼玉、群馬、山梨、長野各県で農業用ハウスの倒壊が相次ぎました。

本会関係者では、山梨県の白州郷牧場、長野県の八ヶ岳ナチュラファーム、長野県の上田マルタ、群馬県の有限会社プレマさんなどでハウスが押しつぶされるなど大きな被害が発生しました。被害の詳細は、15頁で報告しています。

有機中央会では、復旧支援の募金を呼び掛けています。

国では、農業用ハウス等の再建・修繕への10割助成など支援政策を打ち出しています。支援政策の内容は、以下のホームページで確認できます。

<http://www.maff.go.jp/j/saigai/>

●有機 JAS と NOP の同等性なる

アメリカが日本の有機 JAS を NOP（アメリカの全米有機プログラム）と同等であることを認め、同等性に基づく制度が1月1日にスタートしました。

●有機農産物及び有機加工食品の JAS 規格 Q&A 改訂:16頁

昨年9月につづいて、NOPとの同等性にかかわり1月にQ&Aが改訂になりました。

●アジア各国でも認証制度の創設進む:2頁

シリーズ アジアの国々での有機認証制度 第1回 台湾

●生産者紹介:5頁

今回は秋田県大潟村の「粋き生き農場」と「かやもり農産」さんです。

●表示の知識:4頁

正しい表示の実施のために品質表示基準を順次紹介します。第1は有機農産物の表示。

●総会の報告:13頁

●有機農産物 JAS 規格別表1適合資材紹介:11頁

シリーズ アジアの国々での有機認証制度を知ろう

台湾の有機認証制度

一般社団法人 JC 総研 和泉 真理 (有機中央会副理事長)

国内の有機食品市場はなかなか拡大しませんが、世界全体の有機製品市場は、1999年からの10年間で3.9倍と大きく拡大しています。

有機製品の国を超えた取引が拡大する中、日本からも有機緑茶などが海外に輸出されています。

日本の食品の海外での「売り」は「高品質で安全」なことですが、一方でお値段は割高。どうせ割高なら、有機という公的認証を表示した食品こそを輸出しては、という発想もありでしょう。

そこで気になるのが、海外の有機認証制度です。「天地有機」では海外の有機認証制度をいくつか紹介することにし、初回である今号は台湾の有機認証制度を紹介します。

なお、この原稿は、2013年3月に農林水産省が公表した「アジア各国等の有機食品に係る表示制度等調査」報告書に基づいています。

台湾の有機認証制度

台湾では2007年に公布された「有機農産品及び有機農産加工品認証管理弁法」に基づいて、有機食品（農産品、農産加工品、畜産品、畜産加工品、水産品、水産加工品の6類型）の表示が行われています。

2013年1月現在で、13機関ある有機認証機関の認証を受けた食品だけが「有機」という表示をつけて売ることができます。台湾で有機製品あるいは有機製品加工品として販売するためには、台湾有機農産品マークと各有機認証機関の有機マークをその有機農産品または加工品のパッケージの上に貼付することが義務付けられています（下図、左側が台湾有機農産品マーク、右側が各認証機関のマーク）。



財団法人慈心有機農業発展基金会

財団法人国際美育自然生態基金会

台湾の有機認証基準は CODEX、IFOAM(国際有機農業運動連盟)や日本の JAS、アメリカなどの有機食品基準を参考にして作られています。現在、台湾行政院農業委員会(農業省に相当する)が認定している 13 の有機認証機関は全て ISO/IEC ガイド 65 に準拠することが義務づけられており、今後 2016 年末までに準拠基準が ISO/IEC17065 に改訂される予定だそうです。

農林水産省の報告書によれば、2006 年の時点で、台湾で消費される有機食品の約 7 割が輸入されたものです。海外で生産され、輸入される有機農産品及び加工品については、台湾行政院農業委員会が有機同等性を承認する 22 カ国の各国政府が認定する有機認証機関の認証を受けた海外生産者或いは加工業者が製造したものであれば、台湾で有機食品として販売することが認められています。

この 22 カ国とは、英国、フランス、オーストリア、デンマーク、フィンランド、オランダ、ドイツ、イタリア、ニュージーランド、豪州、スウェーデン、ルクセンブルク、ギリシャ、スペイン、アイルランド、ベルギー、ポルトガル、米国、カナダ、スイス、ハンガリー、チリであり、残念ながら日本は入っていません。

従って、日本の有機食品を台湾へ輸出して、「有機」表示を付けて台湾で販売することは認められておらず、一般の輸入食品として販売されています。また、現段階では、台湾の有機認証機関は海外産の有機食品に対する認証を行うことはできません。

台湾では、2007 年の有機食品表示制度の整備とともに、有機食品の普及に取り組んでおり、2007 年から 2012 年までの間に有機農産物の生産面積は約 2000ha から約 5500ha へと拡大しています。

一方、有機食品の需要については、台湾では有機農産品の値段は一般農産品と比較すると 2 倍から 3 倍しますが、2007 年から 2012 年の間にその販売額は倍増しています。有機農産品を専門に販売する専門販売所が全国に 1,600 ヶ所以上あり、所得の高い層や、高学歴で健康に関心のある消費者層が購入者の中心となっています。

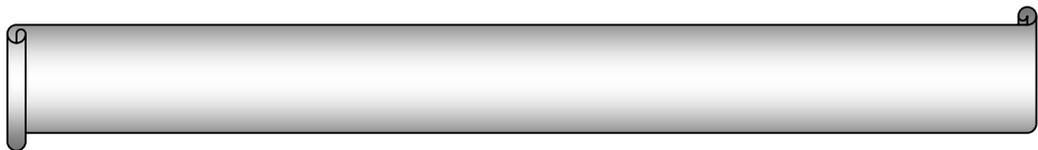
日本の農林水産物の輸出先としての台湾は、輸出先として 2014 年には香港に次いで第 2 位を占める主要市場です。農林水産物の輸出先としての台湾の特徴として、野菜や果実の輸出額が比較的高く、特にリンゴ、ナシ、ナガイモでは最大の輸出先となっていることがあげられます。

台湾では日本からの輸入食品に対する安全性や品質面でのイメージが非常に良いため、有機農産品以外の一般農産品や加工品においても安心して信頼できる商品との高い評価を受けています。

一方、台湾は 4~8 年前はコメの最大の輸出先でしたが、近年は香港やシンガポール向けが増え、台湾へのコメの輸出量は減ってきています。

〔写真〕 台北にある、商売の神様として人々の信仰篤い「行天宮」。米や餅、果物、菓子などのお供え物が山と積み上げられている。





食品の表示は何のために必要？

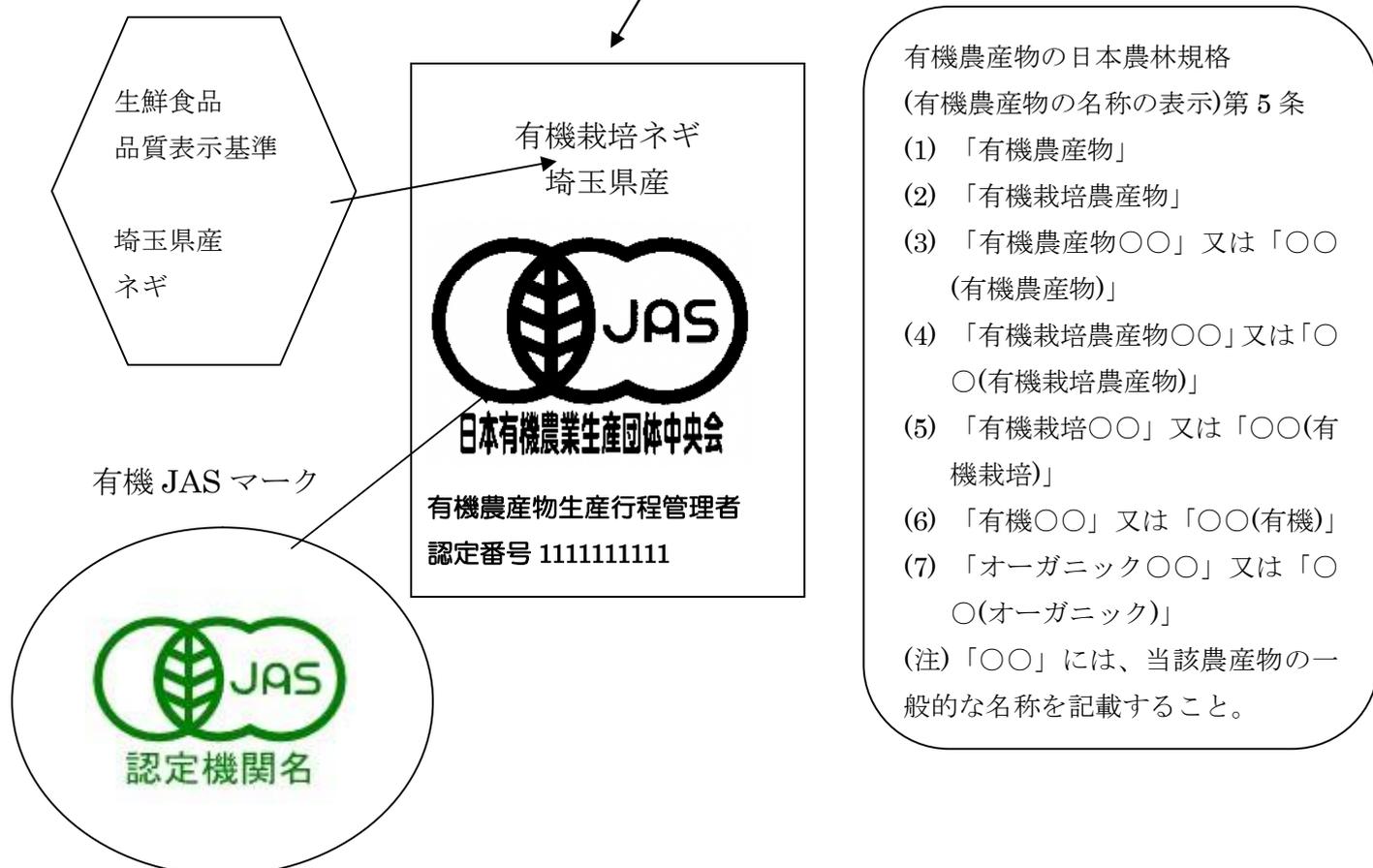
食品を販売するためには、必要な表示が決められています。それぞれの食品に表示する内容は、JAS 法、食品衛生法、健康増進法(ただし、この 3 つに係る表示は 2 年以内に食品表示法に統合予定)、計量法などさまざまな法律で決められています。

そのひとつである JAS 法では品質表示基準で表示内容を決めています。品質表示基準は生鮮食品と加工食品があり、さらに多様な食品に対応するため個別の品質表示基準があります。すべて合わせると 56 の品質表示基準になりますが、これらの基準は食品の内容を正確に表示するために必要なのです。

有機農産物の表示—野菜の場合—

有機農産物の表示は、どのようにするのでしょうか。まず、有機農産物の野菜も生鮮食品ですので生鮮食品品質表示基準がベースになります。そこに有機である旨の表示(有機〇〇等)、有機 JAS マークを足し算していくこととなります。

- 1、生鮮食品品質表示基準では、農産物の一般的な名称、原産地(都道府県)を表示することが決められています。
- 2、有機である旨の表示は、有機農産物の日本農林規格第 5 条にある 7 つの表示のいずれかで表示することが決められています。
- 3、有機 JAS マークは、有機である旨の表示と合わせて表示する必要があります。(つづく)



生産者紹介

今回は秋田県大潟村の「粋き活き農場」と「かやもり農産」の登場です。

その前に、大潟村がどんなところか、簡単にご紹介します。(大潟村HP参照)

龍神伝説の湖がアメリカ型農業のモデル農村へ

戦後、食糧不足解消のために各地で干拓事業がすすめられ、当時、日本で2番目に大きな湖だった八郎潟も1957年に干拓工事が着工しました。

ここで営農する人たちは1966年から5回にわたり全国から募集され、厳しい審査をくぐりぬけた優良営農者約580人が、1年間の共同生活による訓練を受けたのちに入植しました。

ここは日本農業のモデルとして、1軒あたり基本区分約10haと副圃場5ha(当時の日本の農家平均水田面積0.55haの約20倍)が配分され、ヘリコプターによる直播や外国製大型コンバインによる営農が推奨されましたが、入植当時はコンバインが田んぼに埋没してしまうなど、困難を極めたそうです。



昭和46年(1971年)ごろから機械化への転換が始まり、栽培的にも経営的にも目処がたつようになったのです。

干拓地だからこそ 豊かな自然

干拓地でも使える大型田植え機やコンバインの普及、カントリーエレベータによる保管など、夢のような営農が可能になった頃、世の中は米の生産量が消費量を上回るようになり、水稲単作から田畑複合経営が求められるようになりました。

大潟村では、安全・安心を求める消費者ニーズに応える営農へ転換をはかり、1980年代から有機農業が実践され、1990年には農薬の空中散布を中止しました。

2001年には村内農業者有志により「環境創造型農業宣言」がまとめられ、有機農業に積極的に取り組んでいます。

かつての八郎潟の湖底土だった大潟村の土壌はミネラル分に富んでいるうえ、稲わらなどの還元により肥沃な土壌が作られ、大幅な減肥が可能になっています。平成25年度で91名が約570haの有機栽培(自然栽培を含む)に取り組んでいます。

村内には腐食質に富んだ500万年前の海水由来のモール温泉もあり、隣接の男鹿市とともに「男鹿半島・大潟ジオパーク」(ジオパークとは地球の成り立ちを知るのに重要な地質遺産を含む自然公園)の登録をめざして準備をすすめています。

(有) 粋き活き農場

*2月20日、研修で上京された加藤和史代表取締役社長にお話を伺いまとめたものです。

連絡先

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村南1丁目8-3

Tel : 0185-45-2881 Fax : 0185-45-2580

Mail : ide@tohoku.interq.or.jp

16ha! 広大な有機水田



粋き活き農場の圃場は19haあり、そのうち16haで有機の米と大豆を作っています。基本は米で、大豆は地質向上のために毎年圃場を変えて5haほど作付けをしています。残りの3haは特別栽培米です。

九州福岡から1974年(昭和49年)に大潟村に入植した妻の父(井手教義さん。現会長)が、1980年代半ばから、田んぼ1枚、1.3haほどを手始めに、米の有機栽培に取り組みはじめました。

義父は化学肥料も農薬もない昭和30年初めに農業を始め、当時の九州では「百姓の神様」と尊敬されていた松田喜一先生の教えに従って、土作りに励んでいたそうです。

有機栽培のポイントは3つ

30年近く有機栽培を続けてきたので、現在はほぼ「粋き活き農場」の有機農法を確立しています。

義父が夢と希望を抱いて入植した新天地・大潟村は、アメリカ式の大規模・省力型農業をモデルとし、化学肥料と農薬の多投入が近代的かつ当たり前とされていました。しかし、入植して数年経つと、地力の衰えが顕著になってきたのです。様々な土壌改良を試みた末に本来の土作りに戻り、有機栽培に取り組み始めたそうです。

私は山形県の兼業農家の出身ですが、農業よりも勤め人になってほしいという家族の希望で就職しました。農業高校を出たし、農業をやってみたかったのですが。

仕事の関係で妻と知り合い、大潟村を訪れ、義父の農業を見るたびに心が騒ぐようになりました。ある日、義父に「全部の圃場を有機栽培にしたらどうですか」と言ってみました。そんな無謀なことを言う私に、義父は「一緒に農業をやらないか」と言ってくれたのです。私は、ほとんど迷うことなく義父の下で働くことを決めました。私が36歳のときですが、偶然にも義父が入植したのも36歳だったとか。

米の有機栽培を始めて4年後(1989年)には、生活協同組合への出荷ができるようになりました。

ポイントは、「苗づくり」「除草体系」「自家製肥料」の3点です。

苗づくり

昔から『苗半作』という言葉があるとおり、稲作で重要なのは苗の丈夫さです。一般的な田植え機の場合、育苗箱に100～250gの種籾を蒔きますが、ポット育苗では50g程度で、1本1本の苗を大きく育てます。通常の苗の2倍ほどに育った苗を、専用の田植え機で植えます。この際、粗植にし、根をしっかり張らせます。

私がまだ慣れない頃、育苗中に葉先が枯れてしまったことがありました。もう一度播種をしても田植え時期に間に合わず、もうおしまいだと真っ青になっていたところ、義父が苗をじっくり見て、「大丈夫。根が傷んでないから、ほとんどは使える」と言い、田植えをしました。義父の言ったとおり、その後は立派に育ち、味も収穫量も例年とほとんど変わらない結果がでました。根がそれほど大事だと学んだ出来事でした。

除草体系

除草はアイガモ、機械、人力を組み合わせています。

田植え後しばらくして、圃場全体で1500羽ほどのアイガモを入れます。幸い、圃場がつながっているので、隣の人の圃場との境にだけ網をしておき、7月20日ごろに引き上げます。

除草機は平均4回ほど入れて、株間の土をかきまぜ、雑草を出にくくします。

栄養抜群の米「芽吹き小町」が自慢

玄米は栄養価が高いが炊きにくく食べにくい、白米は美味しいが栄養価が損なわれている。この問題に取り組み、世界に先駆けて開発したのが粋き活き農場の発芽玄米「芽吹き小町」なんです。

普通の発芽玄米と違うのは、モミから発芽させることでγアミノ酪酸（いわゆるギャバ）が従来製法の約2倍、白米と比べると約23倍もできます。

とりきれない草を、夏の盛りに人力でとります。これは、働きに来てくれる人たち含め、7～8人で行ないます。

稲が成熟期に入ったら、田んぼには入りません。むやみに田に入ると根を傷つけてしまうからです。根を傷つけないように育てると、反収にして1俵ほども差が出るように思います。

自家製堆肥

土作り、すなわち堆肥作りは義父の知識と経験の集大成と言えます。

基本となっているのは粋き活き農場で収穫した米のぬかで、ここにカボチャ（大潟村名産かぼちゃパイの製造で出る皮や種）、醤油カスやオカラ（遺伝子組み換えでない大豆のもの）、ナタネカス（秋田の山間部で作られている菜種の油カス）、秋田名産のハタハタ（魚）のあら（頭や内臓）など、地域の特色を生かした原料を加え、モグラ堆肥と納豆菌、麹菌で発酵させます。

ここに、世界遺産・白神山地の湧き水で微生物を活性化させたボカシを加え、完熟するまで何回も切り返します。

また、稲刈りのあとには田に稲わらをまき、上から堆肥を撒いて春まで置き、稲わら堆肥にします。春になったらここに完熟堆肥をさらに撒く、手間ひまをかけた土作りです。

この製法を開発し、特許申請をしてから特許取得まで3年もの月日がかかりましたが、製造工程すべてを自社で行なっているので、安全性にも美味しさにも自信があります。有機農法の米だからこそ玄米から丸ごと食べてほしい、食べる人の健康と、地域の環境を守りたいという願いがこもった製品です。白米を食べなれている方も、1～2割の『芽吹き小町』を白米に加えるだ

けで、毎日無理なく、身体に良いギャバを

とることができるでしょう。

天日乾燥米は絹の輝き



粋き活き農場では、あきたこまちとササニシキの天日乾燥米と機械による低温乾燥米（それぞれ玄米と白米）を扱っています。

天日乾燥米は、1枚の圃場を8人で3日半かけて刈り取り（機械作業の数十倍の時間）、昔ながらの杭かけという方法で乾燥させる手間のかかったものです。

そこまでしても、出来上がった米の輝きをみると、苦勞が吹き飛びます。機械乾燥米と比べると一目瞭然、天日で乾かした米は、まさに絹のような、上品で落ち着いたきのある白さを持っているからです。味の違いも、子どもたちでさえわかるほど。勞力からいって大量に作ることはできませんが、ぜひ味わって頂きたい一品です。

●天日干しの面積 1.3畝

●刈り取り

通常のコンバイン：1日

バインダーでの刈り取り：2日半

●乾燥

通常 of 機械乾燥：1日

天日乾燥：20日から30日。ハザかけ作業には8人で2日半

●脱穀

通常はコンバインで刈り取りと同時に脱穀するが、天日乾燥の場合は、乾燥したものを手作業でコンバインに運び3日ほどかける。

古代米の朝紫（黒米）も好評をいただいています。黒米はアントシアニンやビタミンC、ミネラル分が豊富で、古代では皇帝や貴族たちが珍重していたとも、祭りごとのときだけ食べた、赤飯やおはぎの起源とも言われています。ご飯を炊くときにスプーン1杯ほど入れるだけで、あざやかな赤色のご飯になります。

大豆はそのまま販売するほか、自家製の味噌として販売しています。義父は入植2年目に大豆の全国共励会で全国中央会長賞を受賞したほどの大豆作り名人です。最近、堆肥のための納豆菌を使って納豆作りに挑戦してみたところ、とても美味しい納豆ができました。こちらはまだ販売していませんが、稲わらもすべて有機で安全な納豆を、いつか皆さんに提供できたらと思います。

そうそう、有機栽培の稲わらは入手が難しいようで、どこで調べたのか、沖縄の料理店から要望があり驚きました。送料がだいぶかかってしまうのですが、それほど貴重なようです。

商品の購入方法 直販（電話かファックスで）のほかにネットでも販売しています。

☆ 株式会社マルタ <http://www.maruta-mogura.co.jp/>

☆ 楽天市場 <http://www.rakuten.ne.jp/gold/akitaide/>

☆ びんちょうたんコム <http://www.binchoutan.com/ide-okome.html>

かやもり農産 栢森一夫

* 2月21日、電話でお話を伺い、お話の内容をまとめたものです。

連絡先

〒010-0442

秋田県南秋田郡大潟村東2-4-3

Tel : 0185-45-2373 Fax : 0185-45-3155

Mail : dojokko@vesta.ocn.ne.jp

人類の未来を考え、有機栽培システムを作りたい

大潟村であきたこまらの有機栽培を始めて20年になりました。

若いとき山登りで世界中を歩き、物質的に豊かな先進国よりも、貧しいといわれる途上国の人々のほうが、本当に良い笑顔をしていて、過酷で短い人生でも楽しんで生きていることに気づいたのです。貨幣経済が主体の社会は人を蝕み、医療費ばかりが増え続けているじゃないか、心身ともに健康で持続可能な社会を作らなければいけない。その思いを形にするためでもありました。

野菜や1反ほどの田んぼならともかく、大潟村のような規模の大きな圃場で有機栽培に取り組むことは至難の技で、試行錯誤



を繰り返し、4~5年があつという間にすぎました。一定のめどがついてから20年。今では自信を持って有機栽培を続けています。

圃場は15ヘクタールで有機米、他に味噌を作るため3反歩だけ大豆を作っています。

智通エクセル農法は微生物バランスを生かした農法

土作りには堆肥を使います。米ぬかとマルタのモグラ堆肥をあわせ、じっくりと発酵させます。もともと土の中にいる微生物を元気にすることが、土作りの基本だと思えます。

そのために「智通エクセル農法」に取り組んでいます。「智通」は乳酸菌生成エキスのこと。人間が飲めば腸内の善玉菌が増えて腸内がきれいになり、身体の免疫力が整います。その働きを土作りに応用したのが「智通エクセル農法」です。

植物は根を通じて土壌から栄養分を吸収し、茎や葉にエネルギーを供給しているの

で、土壌の良し悪しが植物の生育状態を左右します。

栄養吸収作業に大きく貢献しているのが、土壌中の微生物。バランスよく土壌細菌が棲んでいれば、落ち葉や動物の死骸などから良質の有機栄養が土中でつくられ、植物はこれを直接吸収することができ、しかも、根毛を多く、より丈夫にする力があるので吸収効率がよくなるのです。

稲が丈夫であることが有機農法をすすめるうえで、いちばん大切ですし、味のよさにも大きく影響します。

アイガモくん、がんばる！

田植えを終えてから10日くらいで、田んぼではアイガモが活躍します。6月初め、圃場全体で1500羽(1反あたり10羽ほど)のアイガモを放ちます。アイガモは飛んで逃げることはほとんどありませんが、残念ながら獣や大型の鳥にやられ、7月末に引き上げる頃には半数ほどになってしまいます。でも、苗が元気に育つまで、根元につく虫や水草を食べてくれるので頼もしい助っ人です。同時に機械除草を2~3回行い、最後は人力です。やっかいなヒエは人が入らないと取り除くのが難しい。

除草はこれだけです。土の中の微生物は電気信号を出し種子に働きかけるため、ある種の草が多く出たり少なく出たりしなが

ら、10年ほどでバランスが取れてくるといわれています。うちの圃場でも、10年経った頃から雑草の状態が安定してきました。だから今は、除草で大きく困ることはありません。



有機玄米を食べて健康になろう

食べ物は本来、その風土でとれたものを食べるのがよいとされています。いま、輸入の食糧や食品に依存し、主食よりも副食にお金をかける食生活となっていますが、それは健康にも環境にもよくないことです。

お米は穀物の中でもっとも栄養バランスがよく、炭水化物、たんぱく質、脂肪、ビタミン類、ミネラル、その他の微量要素などが含まれています。

とくに玄米は、あらゆる食品の中でも食物繊維が多く含まれている食べ物です。食

物繊維は、腸の善玉菌を増やすだけでなく、人体に必要な化学物質などを吸着し、体外へ排出する働きももっているため、便秘解消にもなります。腸内の善玉菌を増やすために、わざわざサプリメントなどを摂らなくても、玄米を食べるのがいいですよ。

玄米は消化に時間がかかります。しかし、消化のいい食品は血糖値を急激にあげるため脂肪になりやすく、太る原因のひとつといわれています。玄米が身体にいいといわれているのは、このためです。

子どもたちへの教育から有機の価値を伝えてほしい

販売は宅配による直販が中心です。残念ながら、全体の半数以上あった直販が下降傾向にあり苦戦しています。経済状態が悪くなり質よりも価格が重視されるようになったこと、福島原発事故で東日本の米離れが起きていることなどが直接の原因でし

う。

販売のめどがたたず、5~6年で有機栽培をあきらめてしまう農家もみかけます。それはとてももったいない。10年がんばらないと、土が安定した状態になりませんから。

有機栽培が評価され、市場が広がるため

に、政府が食教育から取り組んでほしいと 願っています。

商品の購入方法 直販 電話かファックス、以下のHPよりご注文ください。

<http://www1.ocn.ne.jp/~kayamori/nagare.html>

.....有機農産物JAS規格の別表1適合資材紹介.....

第1回 強力アルム顆粒

発売元 株式会社オキ アルム事業部

〔会社紹介〕

弊社は広島県東部の福山市に位置し、建設業と有機 JAS 農材を製造しています。全事業部で環境、省エネルギー、自然との調和の精神を柱にしています。30年前より農業部門に進出し、減農薬で環境に負荷のない、誰もが安心して食することのできる美味しい農産物をバックアップしたい思いでやってまいりました。

〔商品紹介〕

アルムは12種の生薬（キハダ、クジン、カンゾウなど）の微粉末をクラスターの小さい水で2年間じっくり熟成発酵させ、微生物の力を借りて生薬に含まれる有効成分を抽出します。そしてこの製法は特許を得ており、この混合生薬抽出液に用途に応じて生薬エキスをブレンドして植物の基本的な能力の強化・促進や、土壌内で根の生育をスムーズに促進することを目的にしています。アルムの農材は微生物と生薬無しでは語れません。

アルムの農材の中でも基本資材となるのが強力アルム顆粒です。

これは珪藻土の焼成したものをベースにしており、多孔質で表面積の多いのが特徴です。また焼成珪藻土の主成分はケイ酸で植物にとって大切な成分です。焼成することにより不純物を除去した粒に重量比で40%の生薬発酵液を含浸させたものが強力アルム顆粒です。

多孔質の粒ですから保水、排水機能もあり、含浸しているアルム液がゆっくりと根圏や表土のひろがり、植物の生環境を整えます。

特に果菜類などの定植時期に植穴施用していただき、さらにはアルム純 EX を株元灌水していただくと活着が促進され、早い立ち上がりが期待できます。

葉物でしたら、播種と同時に条蒔きしていただくことで発芽、発根促進が期待できます。播種機などで2ユニット付いている時は種子を入れるユニットともう一つに強力アルム顆



粒をいれて同時播種してください。



水稲の場合は強力アルム顆粒を育苗時の床土や覆土に混和して、1.5葉～2葉前後にアルム純EXを灌水していただくと、しっかりとした根を形成できます。

強力アルム顆粒の使い方としては、播種時期（種子と同時施用）、定植時期（植穴施用）、育苗時期（培土混和）が主な施用ステージですが、ご注意いただきたいのは、特に水稲の場合、移植時の本田での活着促進で施用いただくケースがあり、その場合移植直前に苗箱の上から強力

アルム顆粒を80gくらい散布していただいております。その時は必ず生長点などに長時間直接接触ないように、そこにかかったものはふるい落としていただくことが重要になります。

効果としては、初期育成の場合の根量の確保、本圃移植直後の根の活着促進などですが、イチゴの育苗、果菜類の育苗などで顕著です。

また最近ではアスパラガスの吸収根の育成（右写真）でもその効果を確認いただいております。



また、秋の養分転流にもアルム純EXとともに活躍しております。

これから発酵の技術をさらに研鑽し、土壌の微生物相の改善資材や土壌の状態のご提案も含めて、トータル的に皆様方の現場をバックアップさせていただければと考えています。

商品の問い合わせ先

株式会社オキ アルム事業部



広島県福山市南松永町 1-16-13

Tel:084-933-3188

Fax:084-934-1536

Mail:webmaster@almnet.co.jp

有機中央会総会の報告

2014年1月25日実施

1月25日に開催されて総会の結果を報告します。まず、有機中央会の業務方針を紹介します。総会でもあらためて確認されました。

有機中央会の理念及び認定業務の基本方針

●定款第3条

この法人は、農業生産者、加工食品製造者及び消費者に対し、有機農業、有機食品産業の推進・啓発に関する事業を行い、健康に役立つ農産物・加工食品を拡大し、自然的・人的・社会的に持続可能な農業の発展と環境の保全に寄与することを目的とする。

●認定業務の基本方針

(1) 公平、公正の原則

認定業務は、何人に対しても公正かつ公平に行い、本会の役員はじめ認定業務に係る関係者は、個別申請ごとに行う検査及び判定に影響を及ぼさないよう努めます。

(2) 迅速かつ正確な処理の原則

認定業務は、遅滞なく迅速かつ正確に行います。

(3) 機密保持の原則

検査認定の過程で得られた情報は、本会と申請者の機密事項であり、確実な機密の保持を行います。

(4) 客観的かつ中立の原則

認定業務は、客観的かつ中立的に行ないます。検査、判定部門は、この原則にもとづき独立性が保証されています。

(5) 信頼性確保の原則

認定機関の信頼性は、必要な技術の向上によって確保されます。本会の業務に携わる者は、業務に必要な知識及び技能の維持向上に常に努めています。

(6) 社会的貢献の原則

本会は有機JAS制度及び米国の有機食品制度の適正な運営に寄与し、有機食品の普及、有機農業の発展、環境の保全並びに国民の健全な食生活の発展に貢献します。

満場一致で全議案を可決

投票率 80.4%

有機中央会の 2014 年の年次総会が 1 月 25 日予定通り開催され、以下の決定を行いました。

- ①2013 年の事業活動報告の承認
- ②2013 年決算報告及び会計監査報告の承認
- ③2014 年事業活動計画
- ④2014 年予算及び 2015 年予算

議決には、226（内書面議決参加 212。総会終了後到着の書面議決は含まない）が参加しました。議決権を有する会員 281 の 80.4%の参加でした。総会は理事会から提案された議案を満場一致で承認しました。なお、総会に提案された議案は、一部修正があります。変更は、基本方針の変更ではありません。

書面議決を含む表決は、以下の通り。

	賛成	反対	保留	書面表決記載なしの委任
2013 年事業活動報告報告	195	0	0	31
2014 年及び 2015 年の事業活動計画	195	0	0	31

議案の修正提案

理事会

総会に先立つ理事会で議案の一部修正が議論され、不適切な文言の削除と誤植の訂正が行われました。総会には、理事会から修正した議案が提出されました。総会は、修正した議案を承認しました。

【修正 1】

II 事業実績の八 財政基盤の確立の項

2. 経費の節減対策に取り組みました。単一での大きな節約項目はありませんが、管理諸経費の節約を積み上げ、事業総収入が減少傾向微増傾向のなかで正味財産の増加を超過達成しました。

【修正 2】

議案の以下の文言の削除

第 1 号議案 VI 監査結果の報告の項

「~~*特段の指摘のない状態が 10 年連続となりました。他に類をみない、高い信頼性です。~~」

【削除理由】

10 年はあしかけで数えた年数であり、実質は 9 年が正しい。過大な表現となっている。また監査は業務のすべてを保証するものではなく、上記のような監査への評価は適切でない。

【修正3】

第1号議案 VI 監査結果の報告の項のNOPの報告

NOPの監査の結果が議案作成後に到着。以下のように修正。

最終判定：~~これからになります。~~米国農務省全米有機プログラムの基準に基づく認証機関として基準に適合している。

【誤植訂正】

●配布済み議案の8頁（決定報告の7頁）ホームページの更新の項
また、みなさんに宣伝の場を提供する会員紹介について、予定より大幅に送れ遅れましたが11月にスタートしました。会員紹介の希望を受けつけています。

●配布済み議案の15頁（決定報告の14頁）第2号議案タイトル
第2号議案 ~~2012~~ 2013年度の決算報告

●配布済み議案の16頁（決定報告の15頁）第3号議案タイトル
第3号議案 ~~2013~~ 2014年度の事業活動計画

以上

関東甲信地域の大雪被害

関東甲信地域の全域で被害が報告されていますが、ハウスなどの損壊が報告されている事業者の被害状況を報告します。

●株式会社白州郷牧場

山梨県北杜市白州町、サントリーの白州醸造所のあるところで水がきれいで美味しいところです。北の八ヶ岳、南にアルプスの景観がとてもきれいです。5畝をこえる有機栽培圃場で年間を通じて、40種類以上の有機野菜を生産しています

2月15日—17日に140cmを超える積雪でした。5畝のうち約80坪がハウス栽培です。このハウスがほぼ全壊しました。



倒壊したハウス群（3月6日の朝、まだ雪に埋もれたまま）：白州郷牧場

●八ヶ岳ナチュラファーム

長野県川上村です。生産の基本は露地栽培の高原野菜です。レタス、ほうれん草、白菜、キャベツなどを栽培します。育苗にハウスが必要ですが、今回はこの育苗ハウスが倒壊しました。メンバーの育苗ハウス5棟中3棟が倒壊しました。

村全体では、イチゴ栽培などの立派なハウスもあります。村の約3分の一のハウスが今回の雪で倒壊したとのこと。

●上田マルタ

長野県上田市。ぶどう、りんごの生産を行うグループです。代表の飯塚氏は県知事賞を何度も受賞するなど、栽培技術には定評があります。

北信地域ですが例年はほとんど積雪のない地域です。雪の備えのない地域に2月15日—16日に80cmの積雪がありました。加温栽培のぶどうハウスがつぶれ、内部のぶどうの木も折れてしまいました。

●有限会社プレマ

群馬県の前橋市の郊外で有機栽培に取り組み、小松菜、白菜などを生産します。有機栽培は、8割近くになります。そのうち約2割がハウス栽培です。63棟のハウスになりますが、27棟が倒壊しました。



つぶされたハウス。屋根のやぶれたビニールは撤去したところ。3月7日の写真。小松菜はしっかりしており生産は維持されている。有限会社プレマ。

復旧支援の募金送り先

復旧支援の募金をいただける方は、以下の口座にお振込みいただくと幸いです。

銀行：三菱東京UFJ銀行 秋葉原支店 普通預金

店番号 626 口座番号 3031695

特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会 理事 齋藤修

*有機中央会の通常会計とは異なります。復興支援の会計口座です。ご注意ください。

有機農産物及び有機加工食品のJAS規格Q&Aがまた改訂になりました。

——メール情報2月1日分より——

昨年秋にQ&Aが改訂になりましたが、この1月にまた改訂になりました。

今回の改訂は、有機JASとNOPの同等性が施行されたことに伴い、その手続き等を説明したものです。

NOPの認証を取得することなく、有機JASの認定を受け、適正に格付けされたものをアメリカへオーガニックもしくは100%オーガニックの表示で輸出することができます。なおその際、認定を受けた登録認定機関から輸入証明書の交付を受けることが必要です。交付の手続きは現在のEUの場合とほぼ同等です。

http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/pdf/yuki_nousan_kakou_qa2601.pdf